

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202254		
法人名	有限会社やさか		
事業所名	グループホームすずらん 吉番館		
所在地	長崎県佐世保市大宮町43-16		
自己評価作成日	令和7年8月31日	評価結果市町村受理日	令和7年12月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和7年10月22日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「いつまでも自分らしく暮らしたい」という理念に基づき、入居者の皆様一人ひとりの生活歴や想い、意向の把握に努めており、入所前と変わらずに生きがいを持って自分らしく施設での生活を送っていただけるような支援に取り組んでいます。  
また、スタッフの年齢や経験値も幅広く、様々な意見交換を行いながら入居者とともに生活していることを意識し、関わり合いを持つようにしています。明るく笑顔のある居心地の良い暮らしを目標に、日々の支援を実施しています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者と職員は、入居者がその人らしく暮らせることを念頭に、笑顔で接し、無理強いないケアの実践と、楽しみを持ち、張り合いのある生活ができることを目指して支援を行っている。特に事業所は、家族や地域との連携を大切にしており、誰かの助けが必要な時に、自治会長はじめ民生委員など役員の協力体制があることは強みである。また、今期、家族の同意の下、居室に見守りシステムを導入し、夜間の転倒防止に繋がる等、職員にとって安心して働ける取組を積極的に行っている。さらに、協力医や訪問看護ステーションとの医療連携体制と、家族の強い希望で、毎年看取りの事例が多いことも特長である。「いつまでも自分らしく暮らしたい」との理念が全職員に浸透し、入居者の穏やかな表情から、理念の具現化が見える事業所である。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームすずらんでは「いつまでも自分らしく暮らしたい」という理念を掲げ職員共有のもとに利用者一人ひとりに寄り添いより良い介護を提供できるよう日々の業務に努めています。	職員は、入居者本人ができることを見守りながら、その人らしい生活が送れるよう、ケアの実践に努めている。“いつまでも自分らしく暮らしたい”との理念の下、入居者が自ら役割を定め、日課に取り組むことで、やりがいと張りのある生活に繋げており、職員はその実現を支援することで理念の具現化に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当事業所自体が地域の一員として、地域とのつながりを大切に、町内会に加入し大清掃や防災訓練などの地域行事に参加していくことで、入居者が日常的に社会とのつながりが保てるように努めています。	事業所は、町内会長や地域役員から地区の情報を得たり、互いに相談し合う関係を築いている。タオルや新聞の提供を受けるなど、日頃から地域との繋がりを大切にしている。夏には近隣の小学生と花火をしたり、高校生の職場体験学習の受け入れなど交流の機会も設けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当事業所は地域の方々から介護施設や認知症に関することなど疑問、質問があれば真摯に対応しています。地域社会全体で高齢者を支え合う環境づくりに貢献できる施設になれるよう努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回、入居者やそのご家族、地域の方々に参加いただき、当施設内の行事や取り組みの報告や地域と繋がりが持てる意見交換を行う事で、介護の質の向上を図っていけるように努めています。	年6回、奇数月の開催である。町内会長、民生委員、婦人部部長をはじめ既定のメンバーが毎回参加し事業所の状況、取組などを報告している。地域との繋がりの様子が記録から窺え、活発な意見交換を反映する充実した内容となっている。ただし、参加家族以外への会議内容の共有はない。	運営推進会議の内容を、参加家族以外にも会議内容を共有することで、職員と家族が同じ視点と理解のもとに支援に取組むことが望まれる。一体感ある支援とサービスの質の向上に繋げていくために伝達の工夫に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	普段から市町村の担当者と電話やFax、インターネットを活用し連絡のやり取りを行い地域全体と連携して高齢者を支えるためのネットワーク強化に協力できるよう努めています。	市との連絡は、メールやFAX、電話などで行っており、申請や急ぎの相談などは窓口に出向いている。担当課職員の訪問がある他、包括支援センターとも連携し、協力関係を築いている。また、主催の研修は、対面やオンラインで参加しており、消防署研修にも参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当施設では原則として身体拘束は行っていません。入居者本人に生命または身体に危険がおよび他に代替手段がない場合に限り、了解を得た上で実施します。その後はモニタリングを行い必要性がない場合は直ちに中止し、入居者が尊厳を持って安心して生活して頂けるよう努めています。	身体的拘束等の適正化のための指針を整備し、身体的拘束適正化委員会や研修を3ヶ月毎に開催している。帰宅願望など不穏な様子が見られる際は職員が見守り、行動を抑止する対応は行ってない。玄関の施錠は夜間のみである。言葉による制止も互いに気を配り、身体的拘束を行わないよう支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の為、全職員が定期的に研修を受け、入居者に対する倫理的な対応を徹底しています。また不適切なケアや虐待に発展する前に職員同士で注意しあい、虐待の芽が見過ごされることがないように努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当施設では入居者本人の権利擁護を最優先に考えています。職員が成年後見人制度を含む法的な保護制度の理解を深め、入居者やそのご家族なアドバイスをできるように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前や契約時の説明の際には丁寧な説明を心がけ、質問や疑問点には必ず答えるようにしています。また規約等の改定時には十分な説明、周知期間を設け、納得した上で施設利用を継続していただけるよう配慮しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者本人やご家族からの意見、要望を重視し、日々の支援に活かせるように努めています。ご家族には電話や面会時にこちらから声掛けを行い遠慮なく話して頂けるよう促しています。また玄関に設置してある目安箱の利用もお願いしています。	日々の会話から入居者の要望等を聞き、家族からは、訪問時や電話で気軽に話してもらえるよう努めている。毎月のすずらん便りは、写真満載で、様子がよくわかると家族に好評である。現在は前日に予約し面会可能である。入居者の好物を食べさせたいとの要望や、医療等の報告手順の見直しなど、サービス向上に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常日頃から運営に関する意見交換を行い、職員からのまとまった意見や提案を積極的に取り入れ、改善のための具体策を話し合い、全体で実施できるように努めています。	職員は、毎月のユニット会議や申し送りの場で、ケアの相談や行事、業務提案などについて意見を出し合い支援に活かしている。管理者は、必要に応じて個人面談を実施し、勤務シフトの変更や長期休暇取得など対応している。物品の整備を含め、職員が働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況やイレギュラー時の対応など、日頃の頑張りをもとに職員を評価しています。また上位の処遇改善加算やその他補助金等についても確実に取得できるような体制づくりに努め、職員への評価に反映させています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課等を通じて、職員一人ひとりに求められるレベルや達成してほしいこと、職員本人の目標等を設定しています。また、外部研修に参加する機会を設け、資質の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の代表者や管理者とは普段から連絡を取り、ネットワークを構築しています。また、GH連絡協議会のブロック会議の会場として当施設を提供するなど、相互交流の機会を設けています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談時から不安を軽減する為に丁寧にコミュニケーション取るよう気を付けています。また、ご本人の要望を尊重し、信頼関係を築き、安心してサービスを利用して頂けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との信頼関係も大切に、サービス導入前にしっかりと説明を行い、不安解消に努めています。また、入居者の状態や介護方針についての情報共有する事でより良いサービスを提供できるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	上記で頂いたニーズを基に現在の身体状況やこれまでの生活歴を考慮しご本人、ご家族と十分に話し合いを行う事で必要な支援を提供できるよう努めている。また、必要に応じて他の専門機関と連携してサービスを提供できるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は施設生活を安心して送って頂けるようにご本人と共に過ごす時間を大切に、生活支援はもとより精神面でも支えとなれるように努めています。また、お互いに信頼し合う関係を築いていけるようコミュニケーションとるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の状態や介護方針についてご家族との情報共有を密にし理解を深めて頂き、お互いに協力しながら最適な介護を提供できるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	社会的つながりを保ち、充実した生活を送れるように、ご本人のこれまでの習慣や生活歴を把握し希望される場所や趣味、集まりへの参加など、ご家族や知人の協力を得ながら支援に努めています。	職員は、生活歴や生活習慣を把握し、携帯の所持、趣味の編み物、塗り絵、折り紙、書き物などの継続がある。また家族の協力もあり、外泊、外食、買い物など出掛けている。孫や近所住民の面会があり、馴染みの関係継続の支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	交流がスムーズに行えるよう、レクリエーションやグループ活動、イベントをスタッフ一同で検討、実施し入居者同士のコミュニケーションを促しながら孤立を防ぎ互いを支え合える関係を築いて行けるよう努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も利用者やそのご家族との関係を大切に思い、困られた時には電話や直接相談して頂き、安心を提供できる存在であるよう努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々発せられる言動から入居者皆様の希望や意向一つ一つに耳を傾け、尊重するよう努めています。また、スタッフ間で共有する事で臨機応変に日常生活や介護に反映して不安なく過ごして頂けるように努めています。	日常の会話から思いや希望を聞き取り、難聴の入居者には耳元で、発語困難な場合は仕草や表情から推測している。また、その人らしく暮らせるよう起床、食事時間も柔軟に対応しており、新たに得た情報は、申し送り時やプロフィールシートに追記し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人を始めご家族、関係各位より情報を頂き、入居者皆様がこれまでの大切にされてきた生活習慣や環境をスタッフが把握するように努め、安心して過ごして頂けるように支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者皆様ができる限りこれまでの生活を続けて行けるよう、生活リズムや身体状況、健康状態の変化に常に気を配り、把握に努め支援に繋がっています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活の中から出てくる入居者のニーズ、問題点をスタッフで話し合い、必要に応じて見直しながら、主治医を始め関係各位の意見も取り入れて、ご本人やご家族のご意向を尊重したより良い支援が行えるようプラン作成に努めています。	初回は、事業所での生活に慣れることや生活ニーズの把握を重視し、長期3ヶ月、短期1ヶ月で設定している。体調の変化があった場合は、医師や看護師の意見を踏まえ、随時計画の見直しを行っている。本人や家族の意向をもとに介護計画を作成し、同意を得た上で実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護の実践において入居者の状況に変化があった場合は詳細にケース記録に記入し、スタッフ間で共有し、以降のケアに反映させる事で適切な支援に活かせるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者やご家族のニーズに応じて買い物や体調不良時の通院、薬の受け取り、入退院時の付き添いや送迎など、できる限りの支援が行えるよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の散歩に近所の公園を利用、外気浴中の地域住民との会話などがメインでしたが、コロナ禍も落ち着き、以前のようにイベントでボランティア団体や住民に來所して頂いたり、買い物に商業施設を利用するなど社会参加のサポートに努めていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者本人の健康管理において、主治医との連携を密にし、月2回の定期的な往診を受けています。また必要に応じて他の病院を受診するなど、ご家族を含めて連携し適切な医療を受けられるように支援も行っています。	往診可能な医療機関をかかりつけ医とし、訪問看護との連携も図っている。通院が必要な場合は、家族の協力のもと対応している。歯科の往診や口腔ケアも実施しており、主治医とは相談しやすく、指示のもとで皮膚科などの専門診療も受けている。夜間や緊急時の対応手順は事務所に掲示し、職員間での連携体制を整備している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は入居者本人の健康状態を把握し、週1回訪問看護來所時には情報共有を行っています。またかかりつけ医、訪問看護ステーションとは24時間対応の緊急連絡体制を整え緊急時にも迅速な対応がとれるよう支援を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者本人が、安心して治療を受けられるように入院、退院される際には、ご家族、入院先の医療関係者と密に連絡を取り合い、退院後も継続的な介護支援が行うよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者本人が重度化または終末期を迎えられる際には本人、ご家族と何度も話し合いながら、希望に沿った支援が行えるよう、主治医、訪問看護との連携を重視し、適切なケアを継続的に行うよう努めています。	看取りに関する考え方を明確にし、契約時に説明し、状況に応じ再度説明と同意確認を行っている。主治医が家族の意思を確認し、本人、家族、医療機関の三者で方針を共有している。職員は経験をもとに、心構えや支援方法について話し合い、入居者が最期まで安心して過ごせるよう、環境づくりや支援体制を築いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故が発生した際には、職員全員が迅速に対応できるように、緊急時のマニュアルの作成、シミュレーションを行い、確実な対応ができるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	入居者の安全を最優先に考え、定期的に火災、防災訓練を職員で実施し、迅速かつ安全に避難誘導が行えるよう準備しています。また、毎日防火チェックを行い火災防止に努めています。	事業所は、年1回消防の指導を受けている。毎月行う避難訓練に合わせて、非常用備品の確認もある。出火場所や時間帯、自然災害の種類などを想定した訓練を実施しており、町内会や消防団との連携も図っている。また、BCPを整備し、ハザードマップをもとに避難経路の確認を行っており、全職員が避難訓練を経験している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の尊厳を最優先に考え、個人のプライバシーが確保されるように、着替えや入浴時は必ずプライバシーが守られるよう配慮しています。また他者の前で尊厳を踏みにじるような言動は絶対に行わない等、安心して過ごして頂けるよう努めています。	職員は、入居者の尊厳を守ることを基本とし、入浴やトイレ介助においても羞恥心に配慮した対応に努めている。書類は事務所で管理し、職員には守秘義務の徹底を図っている。写真使用や夜間の見守り機器の使用に際して、同意書を取得しており、職員には入居者のプライバシーに配慮した対応を周知徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の希望を最優先に考え、可能な限り自己決定を尊重した支援を心がけています。例えば、日常生活における選択肢をいくつか提示し自身が意思決定できる環境を整え、利用者皆様の希望に個別に対応できるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者が自分らしい生活が送れるよう、個々の性格やこれまでの生活歴を考慮して、無理のない範囲でご本人の生活リズムに合わせた支援を行っていきよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者が施設生活の中で、自分らしいオシャレを楽しめるよう、着替えの時には季節やイベントに応じてご本人が好きな服を選べるように支援したり、趣味嗜好に応じて日用雑貨や化粧品などを家族の協力で購入したりするようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しめるように、日頃から入居者と個々の嗜好や味付けなどについて話し、実際に味見をお願いしながら作ったり、簡単な下ごしらえや食事の支度、後片付けを手伝って頂いたりしています。また好きなお菓子等をご家族にお願いして持ってきていただくこともあります。	献立は外部業者を活用し、主菜、副菜、季節行事に合わせて職員が調理している。入居者の体調や咀嚼、嚥下の状態に応じた盛付を工夫し、自身のペースで食事を楽しめるよう配慮している。リクエストは、おやつ等に反映している。誕生会やティータイムなど、食を通じた楽しいひと時を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の健康状態を維持するため、毎日の食事内容や摂取量、水分量のチェックを行い、必要に応じて主治医に報告し、お粥や刻みなどご本人が食べやすい形態で提供したり、栄養補助食品を利用することで栄養バランスを保てるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者の口腔内の衛生を保つため、食後声掛けを行い歯磨きや義歯洗浄などの口腔ケア支援を行っています。また必要に応じて訪問歯科を利用し、専門的な支援も行っています。自身でケアが行えるよう習慣化を促し口腔内の健康維持に努めています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立して排泄が行えるよう、入居者個々の排泄記録をもとに声掛けを行い、トイレ誘導を行っています。介助が必要な場合も声掛けを中心に行い、介助を行うことで徐々に自立を促しているように努めています。	職員は、排泄記録を基に入居者のできること、できないことを共有し、必要な支援について話し合っている。自立の維持に向けて尿意の有無を確認しながら、声掛けの頻度やパッドのサイズ、種類を検討し、安心して過ごせる支援に努めている。できる限り布パンツを使用し、失敗を減らすことで排泄の自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックを行い入居者一人ひとりの排便状況を把握し主治医、訪看へ報告し連携しながら本人に適した排便コントロールを行っています。また水分補給や食物繊維を意識して摂取する事で便秘の予防にも努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は週2回、曜日は決まっていますが、入居者の希望に沿って臨機応変に対応できる体制をとっています。また時間に関してもできる限り希望に沿うようにして入居者が安心して入浴して頂けるよう努めています。	入浴は毎日準備し、週2回を目安に声掛けを行っている。拒否が見られる場合には無理強いせず、時間帯や担当を変更している。今回、浴室を新たに改修しており、入浴しやすい環境となっている。BGMを流したり、柚子湯を用いるなど、リラックスできる環境を整えることで、会話を楽しみながら入浴できるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者が快適な睡眠環境を得られるよう、日中の活動量や個々の生活リズムに応じて休息をサポートしています。特に夜間は、リラックスして過ごして頂けるよう、室温や照明の調整、馴染みの布団や枕を使用して安心して眠れるように努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は主治医や薬局の指示に従い、正確に管理を行っています。また職員は薬の用法や用量、副作用についても把握に努めて内服後の経過や症状に変化があれば主治医に報告を行っています。誤薬防止の為複数の職員でチェックを行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味で続けている編み物や裁縫などをしたり、個々の興味に応じて塗り絵やパズルやナンプレ、お掃除や洗濯物の手伝い、大好きな食べ物や飲み物などを用意したりと、入居者が自分らしい楽しみや役割を感じて生活して頂けるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者が外の空気を感じて頂けるよう、定期的に玄関先で外気浴の機会を設けています。また家族や知人の協力を得て本人が希望される外出や外泊、外食など、ご家族や地域との交流を支援しています。	事業所では、入居者が外気浴を楽しめるように玄関まわりの庭を手入れし、今期はウッドデッキを改修し、過ごしやすい環境を整えている。夏に花火を楽しんだり、ガーデニングで気分転換を図るなど、入居者が季節を感じながら過ごせるよう努めている。家族の協力により、外出、外食や外泊などの支援も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や日常生活においてお金の管理が難しい入居者の方はご家族よりお金を預かって職員がサポートしており、入居者本人が希望される買物ができるよう配慮しています。その際月に一回ご家族に金銭内容の報告も行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者がご家族や友人、知人とのコミュニケーションを円滑に行えるよう、電話の使用や手紙の取り次ぎを支援しています。また携帯電話をお持ちの方は、ご自由に会話やメールのやりとりを楽しまれています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは温度や光の調節に気を付けています。月日や季節を感じて頂けるよう大きなカレンダーを使用したり、壁などの飾り付けに気を配りながら入居者が快適に過ごせるよう努めています。	玄関前には、花や緑を植栽し、入居者がベンチで外気浴したり、草むしりに夢中になることもある。広がりリビングは、天窓に布でカバーして優しい光が注いでいる。花を飾り、季節の装飾も程よく、好きなソファでテレビ鑑賞したり、体操など行う様子が視える。掃除や換気も職員が行い清潔である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースで一人ひとりが心地よく過ごせるよう、入居者の意見を取り入れながら椅子やテーブルの配置を工夫しています。話しやすい距離や個々の活動やプライベートの時間も確保できる空間作りに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者やご家族のご意向を取り入れ、なじみの家具や装飾品、日用品雑貨を配置する事で、これまでの生活に近い雰囲気の中で安心して生活できる環境を整えるよう努めています。	居室は、畳とフローリング仕様の部屋があり、自宅からテレビ、机、椅子、服ハンガー、整理棚等の家具や家族の写真、折鶴、花籠など馴染みの物を持参して、慣れ親しんだ環境になるよう配慮している。大きな表札と目印の色違いボンボンで自室が分かりやすい工夫があり、個性豊かで居心地よい空間である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者が施設内で安全に生活できるよう、手すりを活かし転倒防止を意識した生活同線の確保、共用部に分り易いよう張り紙を行うなど、できる事、分かる事を大切にしながら支援するよう努めています。		

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202254		
法人名	有限会社やさか		
事業所名	グループホームすずらん 貳番館		
所在地	長崎県佐世保市大宮町43-16		
自己評価作成日	令和7年8月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	令和	年	月 日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ケアの際の言葉掛けや利用者への配慮に特に力を入れています。カンファレンス等で言葉使いについては特に注意して話し合い、入居者との温かい関係づくりを目指しています。また入居者へ提供するケア内容を統一するため、職員同士や看護師等からの意見やアドバイスを聞きながら、入居者それぞれにより良いケアが実現できるよう取り組んでいます。  
R7年4月からユニットの管理者が変わり、風通しのいい職場環境づくりに力を入れています。職員から管理者、管理者から経営者への意見や情報共有などについては、特に大きく変わってきています。職員全員がより良いケアの実現に向けて意見を出し合い、入居者の皆さんが自分らしく暮らしていける施設を作っています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「いつまでも自分らしく暮らしたい」という理念を実現するため、入居者の日々の言動の中から一人ひとりの想いやニーズを把握するように努めています。 カンファレンスではその内容をスタッフと共有し、実践へと繋げるよう意識しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や市民大清掃等の機会を通じて地域の方々との交流を持つとともに、敬老の日には入居者に差し入れをいただいたり、地域の方々から古新聞や古タオルを持ってきていただく等、様々な形で支えられています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所としては、地域やご家族の方々からの認知症に関する質問に回答したり、施設見学に来られた方にご家庭での接し方や対応方法などをアドバイスしたりするなど、これまで得られた知見を地域の皆様に還元できるよう努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での報告に対してご家族等から頂戴した要望や意見に関しては、会議の場や職員カンファレンスで議論し、実際に提供するサービス内容に反映させるなどサービス向上に努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	質問がある際には市の担当者に電話して確認するなど、日頃から行政と事業者とのサービスに関する認識が一致するように努めています。また小さな内容でも相談や報告をするようにしており、協力関係を築いています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な研修と日頃からの実践、職員同士の声掛けを通して身体拘束に関する知識の向上や身体拘束をしない意識の向上に努めると同時に、身体拘束のないケアに取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待防止研修を実施しています。また、入居者に対する日常的な言葉遣いや態度についても確認し必要があれば指導するなど、不適切ケアや虐待に発展しないよう細心の注意を払っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されていた入居者の方を事例とし、制度への職員の理解向上に努めています。また、身寄りのない方に関して包括支援センターや行政機関に相談したりと、必要時に素早く対応できるよう日頃から連絡を取っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前や契約時の説明の際には丁寧な説明を心がけ、質問や疑問点には必ず答えるようにしています。また規約等の改定時には十分な説明、周知期間を設け、納得した上で施設利用を継続していただけるよう配慮しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会、電話等、いつでも意見や要望、質問を受け付けている旨の案内をしています。いただいた意見についてはカンファレンス等の機会でも共有、議論し、可能なものについては反映させながらサービスを提供しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案はいつでも受け付けています。管理者は日常の業務中に意見を聞いたり、カンファレンス等で意見を吸い上げたりして運営者に提案し、意見が反映されています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況やイレギュラー時の対応など、日頃の頑張りをもとに職員を評価しています。また上位の処遇改善加算やその他補助金等についても確実に取得できるような体制づくりに努め、職員への評価に反映させています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課等を通じて、職員一人ひとりに求められるレベルや達成してほしいこと、職員本人の目標等を設定しています。また、外部研修に参加する機会を設け、資質の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の代表者や管理者とは普段から連絡を取り、ネットワークを構築しています。また、GH連絡協議会のブロック会議の会場として当施設を提供するなど、相互交流の機会を設けています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の時点で本人やご家族、医療・施設関係者から様々な情報をヒアリングし、施設に入居してからも本人が安心して過ごしていただけるような環境づくりに取り組んでいます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学時点から様々なお話を伺い、入居する際にも要望や意見、不安なことなどを聞きながら初期の関係構築に取り組んでいます。施設側からも丁寧な説明を実施し、ご家族の不安解消に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族が一番困っている事、日常生活を送る上で不安に感じている事を解消できるよう、施設としても対応のほか、かかりつけ医や訪問看護等とも情報を連携しながら初期対応にあたっています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意思や残存機能を尊重し「自分で出来ることはご自分でしてもらおう」を基本として、掃除、洗濯、配膳や食器洗いなどの家事も行っている。また、職員はご本人の選択の機会を設けるよう工夫しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や面会時に本人の希望をご家族に伝え、家族も一体となり本人のニーズに応えていく関係を重視しており、面会等がないご家族に関しても、少なくとも月に1度はご本人の状況を電話等で共有しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご自宅にいた頃から仲良くされていたご近所の方が面会に来たり、ご家族と一緒に好きなご飯を食べに行ったり、入居前まで利用していた施設の職員さんが面会に来たりと、馴染みの関係が途切れないよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの性格や認知症の症状等を考慮し、座席の配置や日常生活での入居者同士の関わり方について考えています。トラブルが発生しそうな場合は未然に対応し、孤立した入居者を出さないよう取り組んでいます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も施設を訪ねて来ていただいたり、電話で近況を伺うことがあります。また、お知り合いの入居の相談をいただくこともあり、継続した関係構築に繋がっています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月入居者本人へ「何をしたいか」「困っていることはないか」等のヒアリングをしています。コミュニケーションが難しい方に関しては普段の様子から潜在ニーズを推測し、本人の望む暮らしの実現を図っています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の段階でご家族や施設担当者から情報を収集し、ご本人にも雑談等を通してこれまでの生活について把握するよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	書類から判断できる内容だけでなく、実際に生活していく中で実践する作業等の様子から残存能力や心身状態を把握し、その後のケア内容に反映するようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを作るにあたり、ご本人はもとより、家族、医師、看護師等と連携して必要なケアを設定しています。また職員からも意見を出してもらい、現状にあったケアとなるよう注意して作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録には普段の様子やケア記録を残しています。記録は具体的に残り、カンファレンス等で振り返りを実施しながら、より良いケアになるよう見直しを実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常生活での介助だけでなく、病院への送迎、薬剤の管理、職員と外出したりご家族へ要望を伝えたりと、生活の延長線上にある様々なサービスを可能な限り提供出来るよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	かかりつけ医の往診、訪問看護の健康チェックなどの医療資源を活用しています。また訪問理容や町内会との繋がり等を持ち、施設でも豊かに生活していただけるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に施設のかかりつけ医について説明し、ご家族とかかりつけ医とが話す機会を設けるようにしています。これまでのかかりつけ医から変更となる場合は診療情報提供書を出していただき、滞りなく適切な医療を受けられるようにしています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設と訪問看護ステーションが連携し、24時間の協力体制をとっています。また日常の気づきや不安なこと等についても随時電話や通信アプリで連絡が取れるようになっており、適切に医療職に情報をつなぐ体制を整えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、病院のソーシャルワーカーとは常に緊密に連携し、ご本人の状況や情報の把握に努めています。また早期退院に向け、ご本人の様々な状況に対応できるよう施設として受け入れ態勢を整えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居する際に終末期に関する考え方をご家族に説明、ご本人や家族の意思を確認しています。また病状等が進行してからも本人、家族、かかりつけ医、施設が状況を共有し、認識を合わせながら丁寧に方針を決定しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の連絡対応はマニュアル化し、事務所の分かりやすいところに掲示しています。ヒヤリハット事例が発生した際には、事故につながった場合を想定し適切な対応を実践できるよう、手順や対応方法を確認しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	月に1度、防災訓練と消防訓練を実施しています。特に新入社員がいる場合は通報の仕方、消火器の使い方などの基本的な対応が確実にできるようにしています。日常ではコンセント周辺の掃除や避難経路の整理整頓等に注意し取り組んでいます。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者を子ども扱いせず一人の人として尊重するよう、かける言葉や対応方法は厳しく指導しています。また入浴や排泄時には確実にプライバシーを確保するようカーテンや戸を閉め対応しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着用したい洋服や食べたいおやつなど、日常生活の中でご自身の好みで選択できるような機会を設けるよう努めています。言葉の理解が難しい方は、「どっちがいいですか？」等の簡単な言葉かけで意思表示がしやすいよう配慮しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝時間等は統一ではなく本人の生活リズムに合わせています。また好きなことややりたい事などを生活の中に取り入れながら、その人らしい生活に近づけるような支援を実施しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後や入浴後に着る洋服を選んでもらったり、新しく買う靴下のがらや色を好みに合わせて選んでもらったりと、身だしなみやおしゃれを楽しむ機会を設けています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節ごとの料理や各地方の料理メニューを提供し楽しんでもらっています。また下膳や食器洗い、台拭き等は入居者と一緒にも多く、食事の一連の流れを職員と共に過ごしてもらうようにしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの取れた献立を外部から採用しています。また、食事以外でも飲水やおやつ時間を確保し、必要な水分量を確保するようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の義歯の使用状況や能力に合わせて、歯ブラシやスポンジブラシの使用、義歯の消毒等を行っています。ご自身での口腔ケアが難しい場合は職員が介助して口腔内の清潔保持を支援しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はご本人の様子や排泄状況に合わせてトイレへ誘導し、できる限りトイレで排泄していただくようにしています。また夜間には必要に応じてポータブルトイレを使用するなど、能力に応じた排泄を続けていけるよう支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の水分摂取量を確認、記録し、医師や看護師に共有してアドバイスをもらっています。また日々運動への参加を促し、排便が基準日数を超えてない場合は医師から処方された薬剤を使用する等、個人の状況に合わせて便秘予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の日にちや順番を、本人の希望も考慮しながら設定しています。また、本人の希望があった場合や入浴が難しい方に関しては手浴、足浴を実施するなど、入浴の楽しみを感じていただけるよう支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温はセンサーで確認し、希望に応じた明るさで寝ていただけるよう照明は個人ごとに調整しています。また不眠傾向の方については処方薬を適切に服用していただくなど、安心して眠っていただける環境を作るよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ごとに処方薬の一覧表を作成し、職員が見て確認しやすいよう工夫しています。また内服薬の服用間隔には特に注意し、副作用や症状の変化があった場合は医師、看護師に適宜連絡をするように対応しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味活動を継続できるよう、ご家族と連携して支援しています。また施設内での作業や草むしり等、能力に合わせてそれぞれ役割を持っていただき、張り合いのある生活になるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの公園に行ったり花壇のお花の鑑賞したりと、施設付近への外出は職員が安全を確保して実施しています。またご家族と外食されるなど、希望にあわせて対応しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在施設内では金銭を所持されている方はいませんが、買い物などの外出と一緒に行かれた際には支払いをしてもらうなど、お金を使う支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族へ電話したいと希望があった場合は施設の固定電話を貸すなどの対応をしています。その際は必要に応じて職員が発信するなど適切に補助し、支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部の壁は季節の飾りを利用者と職員で作成し、飾っています。また車いす利用者が多いため、机やソファ等の配置にも配慮しています。浴室や脱衣所に関してはヒートショック等のリスクを下げるため、一年を通して温度管理を徹底しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士が近くに居られるよう、職員が見守りながら配慮しています。また自分の席やソファ、畳など好きな場所で過ごしてもらえるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはテレビや家族写真、時計や椅子など、ご自宅で使用されていた馴染みのあるものを置くことで、居心地の良い空間づくりに取り組んでいます。ご家族にも居室に入ってもらい、本人と一緒に居室の環境づくりをしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ、浴室等には文字や絵を活用した表示板を設置し、ご自身で場所が判断しやすいよう工夫しています。居室には見守りシステムを導入し、安全に配慮しながらも自立した生活ができるようにしています。		